

話題

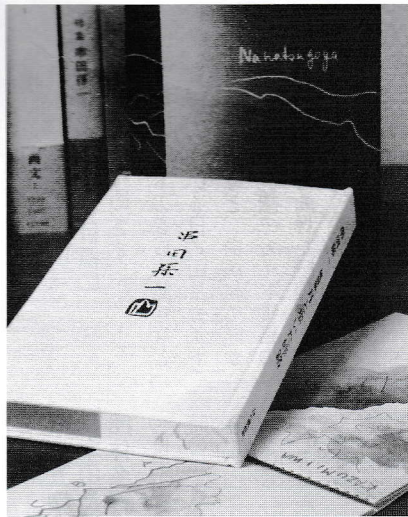
## 山と溪谷社刊、串田孫一氏特装本が 造本装幀コンクールで受賞

と溪谷社が2016年春に刊行した串田孫一著、特装愛蔵版『随想集 月と歩いた峠路』(奥付発行日は2015年11月12日)が、第50回造本装幀コンクール(主催/一般社団法人日本書籍出版協会・一般社団法人印刷産業連合会)において、日本書籍出版協会理事

長賞(文学・文芸(エッセイ)部門)を受賞し、その授賞式が、2016年9月24日、東京ビッグサイトで行なわれた。また、同所で催されていた東京国際ブックフェア会場に展示され、多くの来場者が鑑賞した。「文芸作品の特装限定本の造り」として亀鑑たり得るオーソドックスな造りです。(略)目次も含めて、文字組や余白の取り方で、神経が行き届いています。小口は三方銀。しかもその色はただ豪華を衒うものではなく、この本のタイトルにもなっているエッセイの内容と、読み手の中で響き合い光芒を放つように使われています」

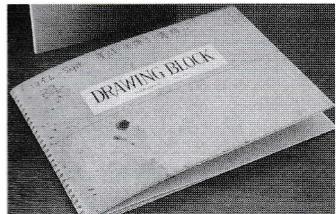
(審査員・古川信夫氏評) なお、今回のコンクール入賞作品は、2017年にドイツ・ライプツィヒで催される「世界で最も美しい本コンクール」の審査会にも出品され、その後、フランクフルトブックフェア会場でも、展示される予定。同書は、雑誌『アルプ』を刊行し、山や登山を思索の軸として旺盛な執筆活動を続けた哲学者・串田孫一(1915〜2005)の生誕百年、没後十年を記念して、串田氏の生誕百年にあたる2015年11月12日と奥付発行日として、山や自然に関する単行本未収録の随想100部を集録した、限定250部の特装版による新刊である。装幀は、長年、新潮社装幀室室長を務めた高橋千裕氏に依頼。特装本としてもまれな三方銀で、串田孫一の世界観を表現。また、北海道斜里町にある「北のアルプ美術館」に移設されている串田氏の書斎の書棚に保管されていた「1956 Sept. 蓬峠・大源太・巻機山」と記されたスケッチブックの一部を再現した付録がセットになっている。なお、僅少だが、残部販売可能。ご希望の方は、左記問合せ先に連絡を。書店販売はなし。

山と溪谷社 串田孫一特装本係  
03-6744-1900 三〇〇  
yamakei.co.jp



特装愛蔵版『随想集 月と歩いた峠路』  
串田孫一著

発行(奥付発行日): 2015年11月12日 本編: 四六判厚表紙 角背 麻布貼 272ページ 250部限定エディションナンバー入り 付きもの: 三折量紙、付録、保護用外箱 定価: 本体1万8000円+税(送料1000円別途)  
電子版『随想集 月と歩いた峠路』(本編のみ。固定レイアウト) 基準価格: 本体1500円+税 主要電子書籍ストアで販売中



付録「1956 Sept. 蓬峠・大源太・巻機山」。  
サイズはほぼ同寸。表紙も現物を複写

報告

## 山の文化に親しむ 第12回「霧ヶ峰・山の会」

2016年10月、ヒュッテ・ジャヴァエルで第12回「霧ヶ峰・山の会」が開催された。14日夜は川上美保子氏の講義「霧ヶ峰草原の植物」。新種シナノトウヒレン発見を語り、ニホンジカによる草原損傷に対する「火入れ」の有効性を説いた。2日目、快晴の鷲ヶ峰では「望岳談話」の花を咲かせた。16年は諏訪大社御柱祭の年。霧ヶ峰東俣国有林で切り出された下社御神木がたどる傾斜35度の「木落し坂」で息を呑み、諏訪下社へ。神社縁起や御柱祭の仕組みの説明を受けた。夜の大放談会では、1935年開催の元祖「山の会」関連資料を基に大いに語り合っ

3日目の金井孝幸氏の講義「私の山登りと百姓談話」は積年のリング栽培を主に、男女倉山の呼称などに話は及んだ。昼はそばを賞味、名残を惜しみつつ解散。(日比野一成||文)

話題

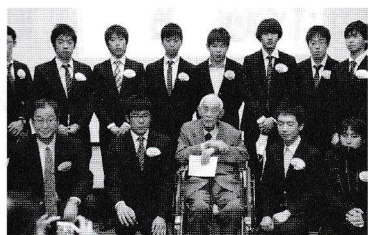
## 北海道大学山岳部が 90周年記念式典を開催

1926年の創立から、スキー登山や沢登りを通じて探検的山登りを追い求め、南極観測などにも多くの人材を輩出してきた北大山岳部。その90周年を祝う式典が、11月6日、東京都千代田区の学士会館で開かれた。当日は約100人を超える卒業生や18人の現役部員に加え、各地の大学山岳部からの来賓約90人も駆けつけ、長い活動の歴史を称えた。

遭難者への黙祷が始まった式典は、小泉章夫・北大山の会会長あいさつ、来賓祝辞と続き、卒業生の白石和行・国立極地研究所長が「極地研究と北海道大学山岳部の関わり」と題した講演を行なった。祝賀会では登山者間で広く愛された北大山岳部部歌「山の四季」の斉唱や、現役部員による活動報告なども行なわれた。(久保田賢次/ヤマケイ登山総合研究所||文)



「山の会」は深田久弥らが開催した山の文化講習会の流れを受け継ぐ。鷲ヶ峰山頂にて



参加者最高齢の今村昌耕さん(97歳、厳冬期ベテガリ岳の初登頂者)を囲む現役部員たち(家老芳美=写真)